

| | | | |
|----|----|----|------|
| 教科 | 国語 | 学年 | 第2学年 |
|----|----|----|------|

| 単元名 | 時数 | 単元の到達目標(小単元のねらい) | 単元のまとまりの評価規準 | | |
|--------------|----|----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1 広がる学びへ | 10 | ○登場人物の設定や人物像を捉え、考えたことをまとめることができる。 ○枕草子を音読し、自分が感じる四季の趣をまとめることができる。 | ○現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。 | ○登場人物の人間関係、登場人物の設定の仕方などを捉えることができる。 | ○文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。 |
| 2 多様な視点から | 7 | ○文章の構成や図表との関係に注意して読み、考えたことをまとめることができる。 | ○熟語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。 | ○文章全体と部分の関係や文章と図表との関係に注意して読むことができる。 | |
| 3 言葉と向き合う | 10 | ○短歌に歌われた情景や心情を想像して、詩を書くことができる。 | ○類義語、対義語について理解し、話や文章の中で使うことができる。 | ○表現の効果を考えたり描写したりするなど自分の考えを伝えるような詩を作成することができる。 | ○表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の詩の良い点や改善点を見つけることができる。 |
| 4 人間のきずな | 10 | ○登場人物の言動の意味を考え、自分の解釈を表現することができる。 ○表現の効果に着目して読み、感じたことや考えたことを文章にする。 | ○敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。 | ○場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて描写を基に捉えることができる。 | ○文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。 |
| 5 論理を捉えて | 12 | ○文章の構成や論理の展開を吟味し、自分の意見や考えを文章にすることができる。 | | ○文章全体と部分の関係に注意しながら、主張と例示の関係を捉えることができる。 | ○根拠の適切さを考えて体験や具体例を加えたり、表現の効果を考えたり描写したりするなど、自分の考えが伝わるような文章を書くことができる。 |
| 6 いにしえの心を訪ねる | 12 | ○古典特有のもの見方や考え方に触れ、現代の人たちとの共通点や相違点を捉えることができる。 | ○作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。 ○現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。 | ○登場人物の言動の意味を考え、そこに表れたものの見方や考え方を捉えることができる。 | ○読み取った内容を自分の経験と結び付け、人物論を書くことができる。 |
| 7 価値を語る | 8 | ○文章の比較を通して気づいたことや考えたことについて表現することができる。 | ○単語の活用を理解するとともに話や文章の構成について理解を深めることができる。 | ○目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、内容を解釈することができる。 ○観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。 | ○読み取った内容を自分の経験と結び付け、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。 |
| 8 表現を見つめる | 8 | ○人物像や表現の効果など自分の選んだ観点で作品の魅力伝えることができる。 | ○助詞や助動詞の働きを理解するとともに話や文章の構成について理解を深めることができる。 | ○目的に応じて複数の情報を整理しながら登場人物の言動の意味などについて考えたりして内容を解釈することができる。 ○観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。 | ○表現の効果とその効果などについて読み手からの助言を踏まえ、自分の文章の良い点や改善点を見つけることができる。 |